



真名子小だより 3月号

えが お

教育目標
進んで学ぶ子
思いやりのある子
笑顔はじける元気な子



令和3年3月12日

発行者 布川嘉英

春を感じさせる日差しとともに、花壇も色づき始め、いよいよ6年生が本校を巣立つ季節となりました。今年度はコロナ感染症による2か月の休校から始まり、短い夏休みと長い2学期、12月から再び非常事態宣言。コロナ関係のニュースがない日は1日もありませんでした。学校行事や学校支援ボランティア活動もその影響を受け続け、中止や延期、実施方法の見直しを余儀なくされました。行事の見直しにはやむを得ず変更したものもあれば、積極的に改善したものもありました。次年度もコロナの状況を考慮しつつ、それぞれの目的に照らして見直すべきものにはしっかりと対応していきたいと考えています。

感謝の週間 2月8～12日

今年は大人数が一堂に会することを避けなければならないため、この1週間は今年度を振り返り、お世話になった皆様に感謝の意を表してお礼の手紙を書くことにしました。感謝の心は人を前向きにさせ、困難に負けない強い心を育て、成長させる原動力にもなります。本校は保護者や地域の多くの皆様に愛され、支えられた素晴らしい学校です。子ども達にはそのことに気づき、実感してほしいと思っています。あわせて布川より、皆様のご理解と日々のご支援に深く感謝申し上げます。

6年生卒業書道 2月16～18日

今年も大塚幸一先生にご指導いただき、6年生の卒業書道を実施しました。約1時間半ずつ3日連続の書道教室でしたが、6年生はそれぞれよく集中し、日を追うごとに腕を上げていきました。3日目、いよいよ卒業式会場に飾る作品を仕上げる日には、初日とは見違えるような力強い作品ができました。大塚先生は「練習の成果を出し切るためには、『必ずいい作品を仕上げる』という強い気持ちが必要だ」と話しておられました。本番に臨む姿勢は、書道に限らずすべて同じだと思いました。



渾身の1枚をめざして

学習発表会 2月19日

今年の学習発表会は各学年の生活科・総合的な学習の成果を発表する場としました。特に3年生以上は各学年のテーマに沿って1年間調べ、研究した内容のまとめを発表しました。子ども達が他学年の発表を見学できるように2時間を設定して奇数学年と偶数学年に分け、また複数兄弟姉妹の発表が同じ時間に重なっても保護者に参観していただけるよう2回繰り返しの発表とさせていただきました。結果として、子ども達は繰り返しの発表で、緊張が少しほぐれて発表するという経験もできたようです。それぞれ工夫のある発表ができ、子どもたちの成長が感じられました。



1年生 自分でできること



3年生 蔵の街美術館について



6年生 育児休業について

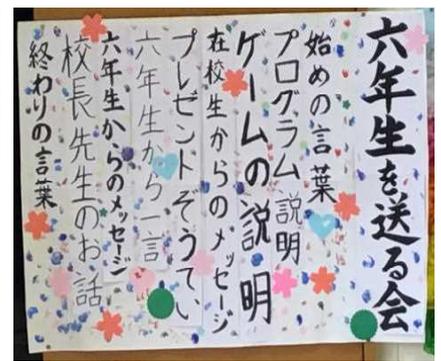
6年生を送る会 2月26日



6年生入場



メッセージと苗木のプレゼント



催しのプログラム

卒業式が3週間後に迫り、5年生が中心となって準備を進めた『6年生を送る会』が開かれました。

6年生の入場に始まり、班ごとにチームを作ってゲームをしたり、プレゼントを贈ったり、とても楽しい一時を過ごしました。

第15代校長の船木三郎先生が「真名子の子どもは素直で、礼儀正しく、よく働く」との言葉を残していたようですが、今も確かに受け継がれています。それに加えて「明るく元気で仲が良い」6年生でした。その姿は本校の良き伝統として下級生に伝わっていくと思います。

(6年生の皆さん。中学校に行ったら真名子小で培った『真名子っ子魂』を存分に発揮してください。)



思い出づくり 《6年生と対戦》 3月1日～

卒業式を間近に控え、昼休みには各学年が代わる代わる6年生とゲームをして楽しみました。

1年生はドッジボール。1年生が考えた特別ルール（6年生は走って逃げないとか、利き腕で投げないとか）で、1年生勝利。2年生は『かくれんぼ』と称する鬼ごっこ（見つかっても逃げ切れればセーフ）。3・4年生はサッカー。終了間際に6年生が得点して勝利。5年生はハンディ無しのドッジボールでガチンコ対決（途中からボールが2個に）。6年生が意地の勝利。みんないい思い出ができました。6年生はいつも通り素敵な先輩でした。



各方面の皆様から御寄贈いただきました。

社会福祉協議会様より、次年度の新生に登下校用の黄色い帽子
全校児童にランドセルカバー

西方商工会女性部様より、全校児童および職員に押し花飾りの
マスクケース（右写真）をいただきました。

心より感謝申し上げます。

